

## 「全鍍連」 2019年 4月号 巻頭言

全鍍連 副会長 島田 博雄（東邦メッキ㈱ 代表取締役）

「私にとっての平成」



この巻頭言が掲載されるのは平成 31 年 4 月ですので、平成最後の号となります。平成元年は 1989 年 1 月 8 日からです。私はその時 38 歳、私と妻の両親はまだ健在で、長男が 8 歳でした。会社は昭和 59 年に現在地に全面移転しましたので、5 年が経過し、やっと安定してきたころでした。

経済では、この年の 4 月に消費税 3% が導入されました。その 10 年前にオイルショックが起きて一時的な経済の低迷はありましたが、高度成長から安定成長へと移り、1991 年のバブル崩壊まで続きました。その後「失われた 20 年」と言われる停滞期に入ります。2007 年にはリーマンショックがありました。その後も景気が良くなったという実感はないでしょう。平成は経済的にはあまり良くない時代であったと思います。

政治では平成元年の参議院選挙で自民党が過半数割れとなり与野党逆転しました。その後は政権政党も何度か変わり、また多くの新党が結成されては消えていきます。政治的にも混乱の時代であったと思います。

平成は日本国家としての戦争がなかった時代です。明治は日清戦争、日露戦争、大正は第一次世界大戦、昭和は太平洋戦争です。悲惨な戦争により多くの犠牲が払われました。戦争がなかっただけでも良い時代であったと思います。

地震、台風、洪水、火山等の自然災害はいつの時代でも起こります。世界的に見て日本は自然災害の多い国です。自然災害はいつどこで起こるか判りませんが、残念ながら教訓が生かされていないように思います。災害の防止や災害時の安全確保などは行政に負うところが多いのですが、土地使用や開発に対して防災上の理由で行政の権限を強化し、未然に防止できるような対策を行い、災害が起きれば国が保証する仕組みを作ってもよいのではないのでしょうか。

5 月 1 日に改元となります。私と妻の両親はすでに他界、会社は今年、子供に社長を譲りました。

平成の 31 年間は私にとって人生の成熟期でありました。悔いもたくさんありましたが、それは自分への試練だと思っています。還暦になった時に私は「人生の折り返し」と周りに言っていました。折り返してまだ 10 年も経っていませんが、やりたいことはまだまだたくさんあります。新しい時代を歓迎し、気持ちを新たにして、人生を楽しみたいと思います。

全鍍連は昨年 70 周年を迎えました。昭和、平成そして新元号の下、100 年を目指して進んでいきます。組合員皆様の英知を結集して難局を乗り越え、益々躍進されますことをご祈念申し上げます。